



平成29年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

都道府県・政令市名【茨城県】

1 実践テーマ	【 V 】
2 実施対象者	つくば市立荃崎中学校1年生～3年生 合計約270人 学区内小学校6年生（荃崎第二小学校・荃崎第三小学校）
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 教科名（体育・保健体育）</li> <li>② 行事名（陸上競技教室）</li> <li>③ その他（ ）</li> </ul> <p>(2) 地域における活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1 イベント名（ ）</li> <li>2 その他（ ）</li> </ul>
4 目標 (ねらい)	<p>陸上競技の各種目の特性について理解し、基本技術を身につける資質や能力を養うことを目的とした。</p> <p>種目は、学校体育で取り上げられる陸上競技の短距離走・リレー、障害走、走り幅跳び、走り高跳び等幅広く取り組み、各種目の初歩的な内容について学ぶことを目標とした。また、種目の導入部分を実習することで運動経験を増やすと同時に、陸上競技の本質的な楽しさや、安全な学習活動についても理解を深める。</p>
5 取組内容	<p>(1) 開会行事</p> <p>(2) デモンストラーション 講師：日本体育大学 教授 水野増彦 先生 アシスタントスタッフ10名</p> <p style="text-align: right;"></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① リレー（バトンパスの受け渡し方法 オーバーパス、アンダーパス）</li> <li>② 走り幅跳び（空中動作＝反り跳び、はさみ跳び）</li> <li>③ 走り高跳び（正面跳び、はさみ跳び、ベリーロール、背面跳び）</li> <li>④ ハードル</li> </ul> <p>(3) 種目に分かれての実技指導（講師：同上）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 短距離走（スプリントドリル）</li> <li>② 走り幅跳び（助走、空中動作）</li> <li>③ 走り高跳び（はさみ跳び）</li> <li>④ ハードル走（3歩でのインターバル走）</li> </ul> <p>(4) 閉会行事</p>

	
6 主な成果	<p>多くの児童生徒が陸上競技に興味をもつことができた。生徒からは自分たちの部活動のウォーミングアップに取り入れようなどの意見が出た。</p>
7 実践において工夫した点 (事業の特色)	<p>小学校6年生が、中学校体験学習を実施しているときに合わせて実施した。初めて中学校生活を体験する児童にとっては、貴重な体験であり、中学校生活が楽しかったととらえられる時間となった。人数が多かったので、近隣の小中学校からマットを借り、場を多く設定する工夫をしたため、2時間の中で効率よい授業となった。</p>
8 主な課題等	<p>陸上競技の実技指導を受け、記録が伸びたと実感するまでには何度も指導を受ける必要がある。今回の事業後、生徒の感想を見ると、速く、高く、より遠くに跳ぶコツが、もっと身に付けたかったという声が多かった。専門的な指導が、体育の授業に効果的に取り入れられると、さらに効果が表れると感じる。また、マットやハードル、スターティングブロックなど、用具の充実も望まれる。</p>
9 来年度以降の実施予定	<p>今回のアンケート結果を見ると、95%の生徒が楽しかったと答えている。できれば、今後も継続して取り組んでいければと考えるが、予算の課題が大きい。ただし、今回の事業だけでも、生徒にとって十分の成果が上がったと考える。</p>